

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第1部門第1区分

【発行日】平成25年10月10日(2013.10.10)

【公開番号】特開2011-87571(P2011-87571A)

【公開日】平成23年5月6日(2011.5.6)

【年通号数】公開・登録公報2011-018

【出願番号】特願2010-191297(P2010-191297)

【国際特許分類】

C 12 M 1/34 (2006.01)

C 12 Q 1/04 (2006.01)

【F I】

C 12 M 1/34 B

C 12 Q 1/04

【手続補正書】

【提出日】平成25年8月22日(2013.8.22)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

少なくとも検体と第1酵素とから調製される第1測定試料および第1酵素を用いることなく少なくとも前記検体から調製される第2測定試料を調製する試料調製部と、

前記第1測定試料に含まれる細菌および前記第2測定試料に含まれる細菌をそれぞれ検出する検出部と、

前記第1測定試料の検出結果および前記第2測定試料の検出結果に基づいて、検体に含まれる細菌の種類の判別を支援する情報を出力する情報処理部と、を備える細菌分析装置。

【請求項2】

前記情報処理部は、前記第1測定試料の検出結果と前記第2測定試料の検出結果とに基づいて、検体に含まれる細菌に対する前記第1酵素の影響度合いを取得し、前記影響度合いに基づいて、検体に含まれる細菌の種類の判別を支援する情報を出力する、請求項1に記載の細菌分析装置。

【請求項3】

前記情報処理部は、前記第1測定試料の検出結果および前記第2測定試料の検出結果のそれぞれに基づいて、前記第1測定試料に含まれる細菌数を反映した値および前記第2測定試料に含まれる細菌数を反映した値を取得するとともに、前記第1測定試料の細菌数を反映した値と前記第2測定試料の細菌数を反映した値とに基づいて、検体に含まれる細菌に対する前記第1酵素の影響度合いを取得し、前記影響度合いに基づいて、検体に含まれる細菌の種類の判別を支援する情報を出力する、請求項2に記載の細菌分析装置。

【請求項4】

前記情報処理部は、前記第1測定試料の検出結果および前記第2測定試料の検出結果のそれぞれに基づいて、前記第1測定試料に含まれる細菌に関する第1スキャッタグラムおよび前記第2測定試料に含まれる細菌に関する第2スキャッタグラムを作成するとともに、前記第1スキャッタグラムおよび前記第2スキャッタグラムに基づいて、前記第1測定試料に含まれる細菌数を反映した値および前記第2測定試料に含まれる細菌数を反映した値を取得する、請求項3に記載の細菌分析装置。

**【請求項 5】**

前記情報処理部は、前記第1測定試料の検出結果および前記第2測定試料の検出結果のそれぞれに基づいて、前記第1測定試料に含まれる細菌に関する第1スキャッタグラムおよび前記第2測定試料に含まれる細菌に関する第2スキャッタグラムを作成するとともに、前記第1スキャッタグラムのパターンと前記第2スキャッタグラムとのパターンとに基づいて、検体に含まれる細菌に対する前記第1酵素の影響度合いを取得し、前記影響度合いに基づいて、検体に含まれる細菌の種類の判別を支援する情報を出力する、請求項2に記載の細菌分析装置。

**【請求項 6】**

前記検体に含まれる細菌の種類の判別を支援する情報は、少なくとも、検体に含まれる可能性のある細菌の名称を含む、請求項1～5のいずれか1項に記載の細菌分析装置。

**【請求項 7】**

表示部をさらに備え、

前記情報処理部は、検体に含まれる細菌の種類の判別を支援する情報を前記表示部に表示するように制御する、請求項1～6のいずれか1項に記載の細菌分析装置。

**【請求項 8】**

前記第1酵素は、細胞壁溶解酵素である、請求項1～7のいずれか1項に記載の細菌分析装置。

**【請求項 9】**

前記検体に含まれる細菌の種類の判別を支援する情報は、検体に含まれる細菌がグラム陽性細菌であるか否かの情報を含む、請求項1～8のいずれか1項に記載の細菌分析装置。

**【請求項 10】**

前記検体に含まれる細菌の種類の判別を支援する情報は、検体に含まれる細菌がブドウ球菌属以外のグラム陽性細菌であるか、ブドウ球菌属のグラム陽性細菌およびグラム陰性細菌であるかの情報を含む、請求項1～9のいずれか1項に記載の細菌分析装置。

**【請求項 11】**

前記第1酵素は、リゾチームである、請求項10に記載の細菌分析装置。

**【請求項 12】**

前記検体に含まれる細菌の種類の判別を支援する情報は、検体に含まれる細菌がブドウ球菌属の細菌であるか、ブドウ球菌属以外の細菌であるかの情報を含む、請求項1～9のいずれか1項に記載の細菌分析装置。

**【請求項 13】**

前記第1酵素は、リゾスタフィンである、請求項12に記載の細菌分析装置。

**【請求項 14】**

前記試料調製部は、少なくとも前記検体と第2酵素とから調製される第3測定試料をさらに調製し、

前記検出部は、前記第1測定試料に含まれる細菌、前記第2測定試料に含まれる細菌および前記第3測定試料に含まれる細菌をそれぞれ検出し、

前記情報処理部は、前記第1測定試料の検出結果、前記第2測定試料の検出結果および前記第3測定試料の検出結果に基づいて、検体に含まれる細菌の種類の判別を支援する情報を出力する、請求項1に記載の細菌分析装置。

**【請求項 15】**

前記情報処理部は、前記第1測定試料の検出結果、前記第2測定試料の検出結果および前記第3測定試料の検出結果に基づいて、検体に含まれる細菌がブドウ球菌属の細菌であるか、ブドウ球菌属以外のグラム陽性細菌であるか、グラム陰性細菌であるかを判定し、判定結果に基づいて、検体に含まれる細菌の種類の判別を支援する情報を出力する、請求項14に記載の細菌分析装置。

**【請求項 16】**

前記第1酵素は、リゾチームであり、

前記第2酵素は、リゾスタフィンである、請求項1\_4または1\_5に記載の細菌分析装置。  
。

【請求項17】

測定試料に含まれるリゾチームの濃度が、2.5mg/mL以上20mg/mL以下である、請求項1\_1または1\_6に記載の細菌分析装置。

【請求項18】

測定試料に含まれるリゾスタフィンの濃度が、0.5μg/mL以上100μg/mL以下である、請求項1\_3または1\_6に記載の細菌分析装置。

【請求項19】

検体は、尿である、請求項1～1\_8のいずれか1項に記載の細菌分析装置。

【請求項20】

少なくとも検体と第1酵素とから調製される第1測定試料を調製する工程と、  
前記第1測定試料に含まれる細菌を検出する工程と、  
第1酵素を用いることなく少なくとも前記検体から調製される第2測定試料を調製する  
工程と、

前記第2測定試料に含まれる細菌を検出する工程と、

前記第1測定試料の検出結果に基づいて、検体に含まれる細菌の種類の判別を支援する  
情報を出力する工程とを備える、細菌分析方法。

【請求項21】

少なくとも前記検体と第2酵素とから調製される第3測定試料を調製する工程と、  
前記第3測定試料に含まれる細菌を検出する工程とをさらに備え、  
前記検体に含まれる細菌の種類の判別を支援する情報を出力する工程は、前記第1測定  
試料の検出結果、前記第2測定試料の検出結果および前記第3測定試料の検出結果に基づ  
いて、検体に含まれる細菌の種類の判別を支援する情報を出力する工程を含む、請求項2\_0  
に記載の細菌分析方法。